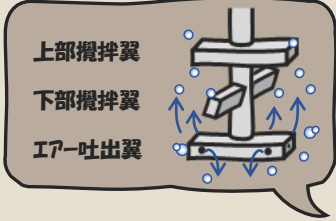
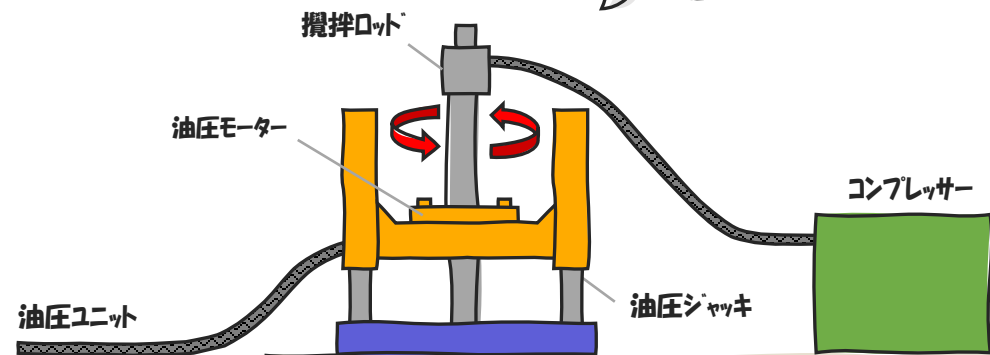


フライヤー RT工法

Flyer Rotary Table

エア-in!



01 回転エア攪拌により孔内の地質を均一に

- ロッドが回転しながら地中を攪拌
- 底部より空気を送り込み土砂を循環
- **上下均一**のセメント濃度に近づける
- セメントの配合や攪拌時間は、杭径杭長ケーシングサイズをもとに算出

02 作業は相番クレーン1度の吊り込みでOK

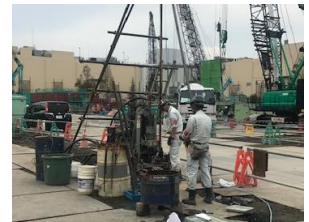
- 最初に相番クレーンで吊り込みをし
- ロータリーテーブル**単体**で攪拌
- 攪拌作業中は**放置**するだけでOK
- 削孔機を止めずに済み、**工期短縮**にもつながる

ロータリーテーブル装置

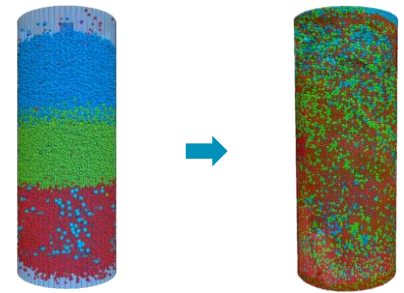


特許取得済
第6162356号

供試体を採取し、大学の研究室にて強度チェック・解析



流体力学ソフト(PFC3D)による攪拌解析
※芝浦工科大学 地盤工学研究室(稲積研究室)



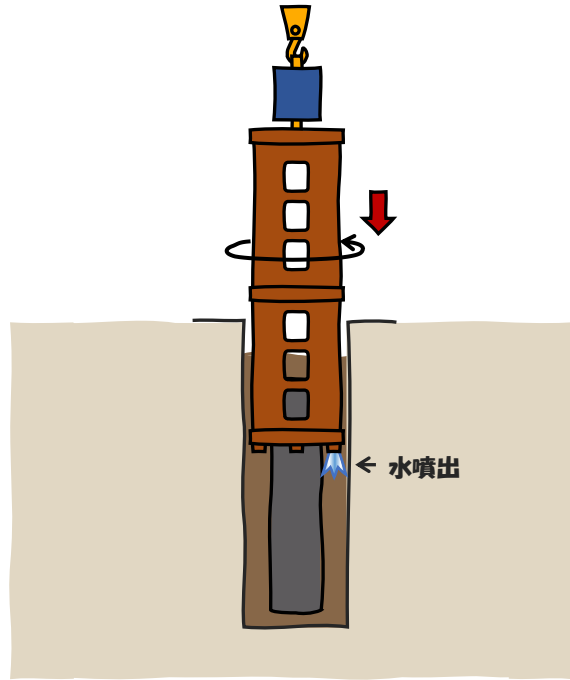
参考攪拌時間=孔内堆積×1min
コンプレッサ 5m³/min-7kpa



芝浦工業大学
地盤工学研究室
(稲積研究室)
稲積教授

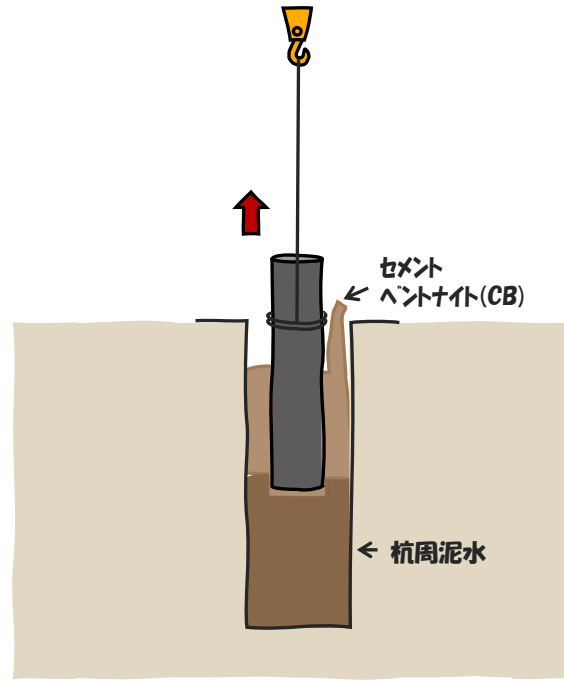
01 ケーシング削孔

先端より水を噴出させ、回転させながら杭の先端まで削孔し縁切ります



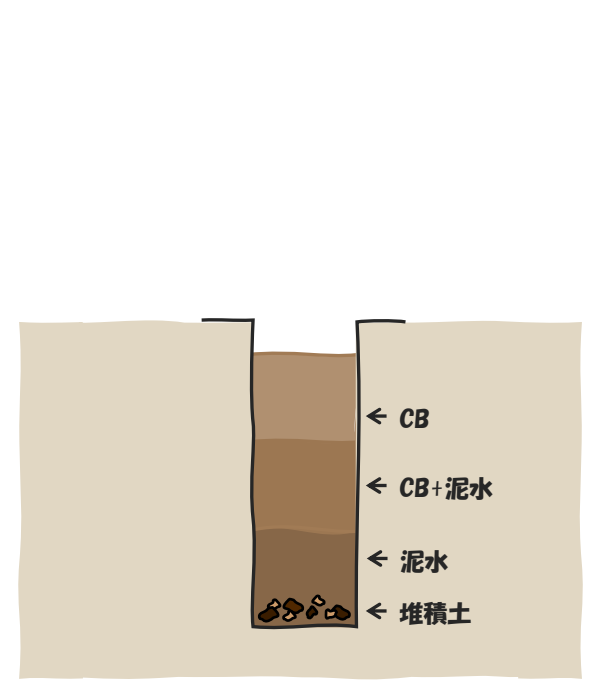
02 杭引抜き、埋戻し

杭抜きと同時にセメントベントナイトを注入し孔壁を保護します



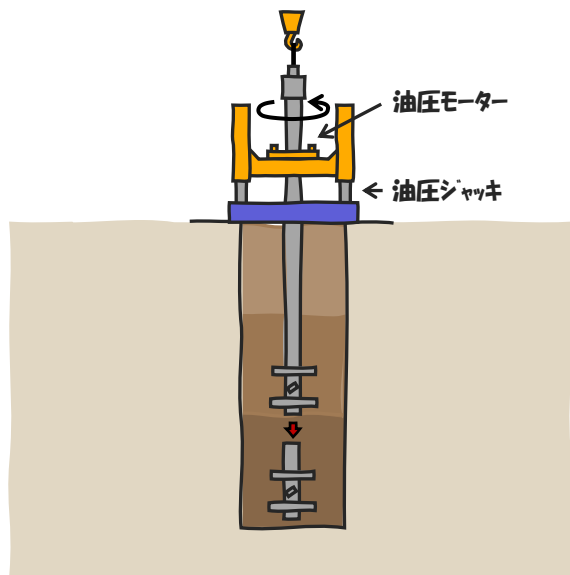
03 埋戻し完了

引抜後の孔内は上部にCB、下部に削孔泥水のおおまか3層になります



04 RT機設置

本体をスタンプパイプに設置したら攪拌ロッドを下部まで挿入します



05 孔内攪拌

底部よりエア回転攪拌し、上下均一のセメント濃度に近づけます

